

②当事者会まとめ

| NO | 付箋の内容 |
|----|--|
| 1 | 出前講座やピアサポートなど、いろいろな取り組みを行っていることに単純に驚き感心した。 |
| 2 | 公民館口座へ当事者の話を聞く機会を増やしてほしい。 |
| 3 | 社協が行っている小学校の車椅子体験の取り組みや目隠し歩行の取り組みに、当事者の参加を進めていくことができると思います |
| 4 | ピアサポートの取り組みを困っている人に紹介したい。 |
| 5 | 当事者の方がどんどん自分の体験を話す機会を持つことが大切ですね！市議会でも話すこともやってほしいです。 |
| 6 | ピアサポートについて知れる場が増えたら良いと思った。最近自助グループを探しているという人もいた。 |
| 7 | 社協の地域教育と当事者会がコラボできたら良い。 |
| 8 | ピアサポートの活動はとてもすてき！！資格+ファシリテーターの存在があれば多くの方が参加できそう。 |
| 9 | ヘルプカードが良い。センターにあるヘルプマークがすぐなくなってしまうため、カードを使用していきたい。 |
| 10 | 出前講座については積極的な広報をしてほしい。 |
| 11 | 出前講座はいろいろな活用方法があると思うので、市民へ周知してほしい。 |
| 12 | とてもわかりやすく、熱い想いも伝わってくる発表だった。良かった。 |
| 13 | 出前講座はいろいろなところが協力して、広がれば良いと思う。 |
| 14 | 防災ハンドブックをブラッシュアップすることで市民の目により触れるし、防災ハンドブックを通じて障がいの話をするきっかけになる。 |
| 15 | 防災ハンドブックが多くの方の目に留まれば良いと思った。 |
| 16 | ヘルプカードが障がいや手帳の有無に関わらず使用できるということを多くの方に知ってほしい。 |
| 17 | ピアサポートがより拡がると良い。 |
| 18 | ヘルプマークがあることで、障がいや生活上の不自由さがあるということを発信できる。 |
| 19 | 防災ハンドブックが地域づくりのツールとなっていくのでは |
| 20 | ピアサポートについては、土日の拠点ができれば良いと思います |
| 21 | ピアサポーターの拠点づくり 演習機会があると関心のある協力者が増えるのではないかと |
| 22 | 自主防災組織とも連携していけたらと思います |
| 23 | グループで話し合うことで新たな視点も出てよかった。出前講座などはGHの地域連携推進会議などで、地域の方に紹介したりしようと思いました |
| 24 | ヘルプカードを代理で役所に貰いに行ったことがあります。今後、当事者に来てくださと言われてました。 |
| 25 | 防災ハンドブックやヘルプカードは数があるのであれば、市内施設でも配布、設置をして必要な方に届くようにしてはいいかがでしょうか。 |
| 26 | 当事者会は防災ハンドブックやヘルプカードなど色々な取り組みをしているため、それらが相互に作用して広まっていくと思います。 |
| 27 | 防災ハンドブックを障がいの理解を進めるために学校関係への周知、出前講座を実施してほしい。 |
| 28 | 当事者の声を大切に運営をされていることを初めて知りました。 |
| 29 | ヘルプカードについて児童、生徒の活用状況や今後の周知方法など予定はありますか。 |
| 30 | 当事者会出前講座は学校からの申し込みが多くないと聞きました。学校への周知が必要と感じました。 |
| 31 | 学校現場における対応としてハード面は大きな課題であるが、人材不足、予算不足など教育委員会だけでなく市全体で考えていく必要があると思います。 |
| 32 | 積極的に活動されていることが本当にすごいと思います。ヘルプカードの配布等、どのように周知されたらよいかグループで話し合いました。広く周知していただければと思います。 |
| 33 | ヘルプカードや防災ハンドブック、地域の方への周知はどうすればよいか？訪看などから配布することはできるが、もしくはネットで印刷できるようにする。 |
| 34 | ヘルプカードはすごく大事なものと思います。しかし、個人情報の関係もあり、財布の奥にしまってしまうと見つけにくくと思います。 |
| 35 | ヘルプカードの配布方法、周知方法が知りたいです。ヘルプカードは手帳に入れるのですか？ |
| 36 | ヘルプマークで災害のそなえ |
| 37 | 防災ハンドブック少ししか配布できなかった。どう周知していくか、広げていくか |
| 38 | SNS管理？ |
| 39 | 地域の防災訓練(いろんな人が来る場)生かせないか |

| | |
|----|-----------------------------------|
| 40 | 自分たちの立場発信、出前講座 |
| 41 | 知る、学ぶ機会をどう作るか。教委と一緒にやるがどうやって広げるか、 |
| 42 | 団体等が要望だけでなく自立支援協議会から声を上げるのも一つ |
| 43 | 障がいの人にクローズアップした訓練をやってみるとかどうか |
| 44 | 出前講座、小中学生が当事者から学ぶことが大切、社協1年10校 |
| 45 | 学校向け？地域向け？ターゲットに工夫をすとか |
| 46 | 吹田市公式LINEで防災ハンドブックを周知してほしい |
| 47 | クローズアップって難しい？でも周知してほしい |

③差別解消まとめ

| NO | 付箋の内容 |
|----|--|
| 1 | 手話をもっと広めていく。文字起こしアプリを広めていく。 |
| 2 | 合理的配慮の勉強会を開催。 |
| 3 | 障害者差別解消法の字が難しい！もっと簡単な略語で広めていくはどうか。 |
| 4 | 合理的配慮の難しさ。ASD、ADHDなど見えない障がいでは特別扱いとの違いが難しく、理解を得られがたい。 |
| 5 | 障害者差別解消法は地域で当たり前にすることが大切です。小学校で手話教育やコミュニケーションボードをみんなが知っているような社会になってほしい。 |
| 6 | 定期的な手話講習の受講で、少しでもコミュニケーションが取れるような取り組み。 |
| 7 | 身近な場所にコミュニケーションボードがあれば、いざというときに活用できる。 |
| 8 | 誰かにとって良いことでも、誰かにとっては良くない（マイナス）に捉えられてしまう現実を解消するためには、話し合う場が必要だと思うけど、どう設定する？ |
| 9 | 救急現場等で、コミュニケーションがすぐにとれるツールがあれば便利。 |
| 10 | 困っていること、差別を受けたことについて言える環境つくる仕組みがつかれたらと思う。 |
| 11 | 目に見えない障がいがある方への配慮や寄り添いの難しさを改めて感じた。継続した配慮が難しい。 |
| 12 | 行政の職員に対しても周知や研修ができれば良いと思う。 |
| 13 | 当事者の方々の話との話から、恒常的にどのような支援が必要か理解し、行動に移せる人が増えると良いと思う。 |
| 14 | 差別解消専門部会にも「課題抽出」として取り上げる内容が多くあると思う。 |
| 15 | 協議会として横の連携を生かして参画していけると良いと思う。 |
| 16 | 小中学校の福祉教育は継続していきたい。当事者の参加があればよりよい教育の機会になると思う。 |
| 17 | 障がいや差別に対する理解不足においては、多くの方が参画することで理解に繋がると思う。 |
| 18 | 「障がいのある先生」はインクルーシブ教育の大事な要素になると感じた。単発のイベントや講義もいいが、日常的に障がいのある方と時間を共にすることは大切だと思う。 |
| 19 | 当事者主体、対話して考える機会を大切にしたい みんなが助かることもあわせて考える選択肢をつくっていく |
| 20 | 差別解消と合理的配慮の正しい理解のためにできることを一緒に考えていきたい |
| 21 | 障害があるからといって特別なことをしてほしいわけじゃないというような内容がグループワークで出て納得。私たちの施設でも外出や外食に車いすや知的障害をもった方で出かけています。（しかも集団…）食事もミキサー食で、など伝えて外食先の方に理解してもらったりしています。こういう人もいるんだな、こういう配慮がいるんだなくらい軽く思ってもらえたら良いなと思いつつ外食や外出に行っています。 |
| 22 | 専門部会が当事者中心となったことは視点が広がりいい取り組みだと思いました |
| 23 | グループワークで多くの方が話せる機会をつくることは重要だと思います |
| 24 | 自分でやれることは自分です。「自立」素晴らしい言葉です。 |
| 25 | 気づきを共有するという言葉が印象的でした。市民が気づける場をどう作るか考えたいと思います。 |
| 26 | 対話が大事と改めて思いました。障がいの理解、差別を解消する支援をするために、その対話の機会を今後どのように増やしていくのか部会が担う役割の明確化が必要だと思いました。 |
| 27 | 障がいに対する理解を促進するためにインクルーシブ教育の拡大など幼少期から障がいに触れる機会を増やして欲しいと思いました。 |
| 28 | 精神疾患のある方、メンタルヘルズに課題がある方に対して、当事者の意向があまり尊重されていないように思うことがある。フラットに偏見を持たずに当事者と話ができればいいと思う。 |
| 29 | まだまだ優しい環境になってないかなと感じます。社会が変化しつつありますが、もっと大きく一人ひとりの意識が変わることが大事だと思います。 |
| 30 | 地域ケア会議等を利用して当事者の方の声を届けてほしい。一番は周りの方に理解してほしい。 |
| 31 | 発表がとても心に残りました。子どもたちが「手話大好き」と言ってくれたように、いろいろな立場の人がいることを知る機会が広まれば、良いと感じました。 |
| 32 | 健常者が障がい者のことを詳しく、理解できていないから差別が起きてしまうと思いました。小学校等の幼い時から障がいへの理解促進をしなければならぬと感じました。 |
| 33 | 街で障がいのある方と移動していると、あまり配慮が得られていない。引き続き、市民の方への啓発をお願いしたいです。 |
| 34 | インクルーシブ教育、エレベーター、入学の2～3年前からの調整、その子のいるいない関係なくエレベーターがあればいい |

| | |
|----|--|
| 35 | 高野台小(センター校)肢、児2h目からしか授業が受けられない、体制づくりができていない |
| 36 | 小学校の校舎ボロボロ、トイレ和式、教育予算足りない |
| 37 | 子供たちききくと障がい児との交流がないという、インクルーシブとは？ |
| 38 | 出来ていないことをやっていく、絵に描くだけではなく実行を |
| 39 | 送迎の準備ができていないという理由、ここに見えない差別がある |
| 40 | 一緒に授業ができない、分離教育になっている。 |
| 41 | それぞれの障がいによってちがう、必要な支援相談することも。望むこと、みんなちがう、その人が望むことができることが大切 |
| 42 | 予算？なんでできない？ |
| 43 | 差別部会で声をあげていくことが大切 |
| 44 | 何に困っているかを知ってもらうことが必要 |
| 45 | 余暇に手話通訳つけれない、本人に寄り添えていない |
| 46 | 行政の寄り添う姿勢、理解しようとしてほしい |
| 47 | 少し聞こえにくい人「大きい声で」って頼みにくい。やさしく喋ってくれるのに |

④内本町まとめ

| NO | 付箋の内容 |
|----|---|
| 1 | 出前講座やピアサポートなど、いろいろな取り組みを行っていることに単純に驚き感心した。 |
| 2 | 公民館口座へ当事者の話を聞く機会を増やしてほしい。 |
| 3 | 社協が行っている小学校の車椅子体験の取り組みや目隠し歩行の取り組みに、当事者の参加を進めていくことができると思います |
| 4 | ピアサポートの取り組みを困っている人に紹介したい。 |
| 5 | 当事者の方がどんどん自分の体験を話す機会を持つことが大切ですね！市議会でも話すこともやってほしいです。 |
| 6 | ピアサポートについて知れる場が増えたら良いと思った。最近自助グループを探しているという人もいた。 |
| 7 | 社協の地域教育と当事者会がコラボできたら良い。 |
| 8 | ピアサポートの活動はとてすてき！！資格+ファシリテーターの存在があれば多くの方が参加できそう。 |
| 9 | 障がい者の理解はなかなか実際難しいと感じる。その立場にならないとわからないことが多い。 |
| 10 | 百聞は一見に如かず。実体験をする機会の増加が理解促進につながると思う。 |
| 11 | 体験すれば理解できることもあると思うので、体験・経験する機会の提供があれば良い。 |
| 12 | 私たちの日常生活の中で、障がい者の方々との接点が少ないのが現状。このような体験機会がオープン的に開催されると良い。 |
| 13 | 一緒に考える機会を増やしていく |
| 14 | 遊びやSNSの活用 だれもが助かることから |
| 15 | SNSで多様な感覚を知ろう系の「中心暗転体験やってみた」とかの発信（JR以南） |
| 16 | 当事者となることが大事 ごちゃまぜの居場所づくりがあったらいいのでは |
| 17 | 障がい者週間をもっとPRし幅広い人たちが体験、参加できるようにすればどうでしょうか。 |
| 18 | 障がいの理解を進めるために体験の機会は大切だと思う。このワークショップを継続していくことで様々な障がいの理解と広く市民の方にも参加いただけるようになる。 |
| 19 | 体験型ワークショップは良い企画だと思う。子供は学校でそのような機会もあるが、大人になるとよほど関心がないと機会もないと思うので。 |
| 20 | 障がいを体験できるワークショップは理解を促進するうえでいい取り組みだと感じました。 |
| 21 | 体験型ワークショップはもっと広げたほうがいいです。 |
| 22 | 体験型ワークショップについて教職員研修でも実施している。聴覚障がい＝聞こえないだけでなくすべての音が同じ大きさで聞こえるなど、障がい状況は様々であることを体験して学ぶことは大切だと思う。 |
| 23 | 子どもの頃から体験できれば、理解することができると思うから、いかに知る体験を作れるかが大事。体験できる機会があれば、良いと思います。 |
| 24 | 視覚障がい者体験キッドをもっと多くの人に体験して頂くことが理解不足解消につながると思いました。 |
| 25 | 体験する機会が増えれば良いと思います。学校に出前講座を行い、体験してもらいたい。 |
| 26 | 体験眼鏡はどこかで貸し出ししているのか？医療職でもイメージがつきづらく、日々の支援で不十分なことが多くあると感じました。体験と講演をうけてみたい。 |
| 27 | 実際に体験してあると理解しやすくなるのではと思う。誰でも体験できるようにスポーツイベントのブースとかに出店するのはどうか？ |
| 28 | 視覚障がいでも人によって違う、自分のことを知ってもらい、相手のことを知る機会大切 |
| 29 | 仲間にたくさん助けられている。ピアサポート大切 |
| 30 | 心のバリアフリー、相手を思う、さっきの学校の話とかもつながる |
| 31 | ヘルパーにどう支援してほしいか伝えると「ありがとう」と言われた。自分も役に立てる喜び、気づきを得た、小さなことのようにとても大きい |

⑤豊津江坂南吹田まとめ

| NO | 付箋の内容 |
|----|---|
| 1 | 母が話を聞いてもらう場が必要。 |
| 2 | 母のネットワークの作りにくさが大変に思う。専門家の関わりが必要。 |
| 3 | 自分の家庭が大変だと発信できていない家庭もたくさんあると思う。そういった家庭もピックアップすることができ、その程度をランク分けできるシステムがあれば良いと思う。 |
| 4 | 産後うつが増えているとニュースでも目にする。同じ境遇に置かれている人同士の集まりに参加できる場所ができたら良いと思う。 |
| 5 | 子どもが出産されたあとの母子フォローのシステムづくりの強化が必要です。早いうちにイエローの母子へのネットワークづくりが必要と思います。 |
| 6 | 事例1：このケースはしっかりとフォローする支援者が必要。それも複数のチームでこの母子をフォローする。 |
| 7 | 事例2：障がいの家族のグループホームがあれば、親への障がいのフォロー、子への育児のフォローもできるのでは。これも複数の支援者集団が必要。 |
| 8 | 子育て支援センターの周知が必要。 |
| 9 | 各関係機関の連携の難しさ。協議会としてのネットワークが解決の糸口になればと思う。 |
| 10 | 必要な情報が必要な人に届いていない状況がある。 |
| 11 | 地域マップはすごく良いとirikumi 具体的に行くきっかけになるイベントなど |
| 12 | スタンプラリー的なもので町めぐり（飲食店などまきこむとか） |
| 13 | 利用者ニーズをつかんで困り事の把握が大事では |
| 14 | マップに記載されている社会資源事業所とはどんなことをやってくれるかわかればうれしい。 |
| 15 | 相談に行くところがわからない。役所？ |
| 16 | 母子の問題は子供の命や成長に関わることであり、事例を通してグループで考えることはいい取り組みであると思いました。 |
| 17 | 単にサービスを利用するだけでなく並走しながら生活全般の見通しが立てられるように調整する人が必要だと思う。ただその役割を誰が担うかは思いつきませんでした。 |
| 18 | 社会資源マップは見た目がわかりやすくよかった。どこに相談すればよいのか詳細な情報をまとめたものもあれば助かる。 |
| 19 | 学校との連携強化が必要。地域の関係機関と地域住民の連携強化。 |
| 20 | グループをしたが、具体的な解決方法が出なかった。それだけ難しい問題であるということを再認識した。 |
| 21 | 支援を求められる支援機関のマップを作成するのは非常にすごいと思いました。今後も継続して支援していくことが必要だと思いました。 |
| 22 | お母さんが相談できる場所が増えれば良いと思う。学校との協力も必要だと思う。 |
| 23 | 養育者にも精神疾患や発達的な障がいがある場合、むやみに地域とつながると新たな問題が起きやすい印象がある。関係機関の支援体制が整っていることがまず、第一ではと思います。 |
| 24 | 障、母子支援、母の障がい受容、SOSが出せず状況悪化、支援機関つながれるとネットワークできる |
| 25 | つながりがないことで母の孤立を深刻に |
| 26 | つながる場所を紹介することができる？団体はある？ |
| 27 | 家庭支援ってあまりないので |
| 28 | 市は手引きはのせていても案内はしていない？ |

⑥片山岸部まとめ

| NO | 付箋の内容 |
|----|---|
| 1 | フォロワー制度があることを知ってもらっただけでも意思決定支援が進んでいくと思う。 |
| 2 | すでにフォロワーの立ち位置である程度実施されていると思います。それをさらに発展させ、より当事者の意見を尊重し、一緒になって目標に向かって考えて進んでいくことが大事だと思いました。 |
| 3 | 支援者も本人に寄り添った働きかけをしていると思うが、フォロワーシステムがあることで、本人主体の支援に立ち返るきっかけになったと思った。 |
| 4 | 当事者の成功例、後悔例があるとわかりやすそう。 |
| 5 | 「フォロワー」という視点はとても大切ですね。今後この視点で学習を進めていくと良いと思います。自立支援協議会主催のオープン学習会をされてはどうか。 |
| 6 | アセスメントをしっかりする。他機関の連携。ケース会議。支援者の立場。 |
| 7 | フォロワーシステムという仕組みは初めて知った。全体会議で一度話を聞いてみたい。 |
| 8 | 多角的な視点が大切。 |
| 9 | フォロワーシステムは初めて聞いた情報だった。 |
| 10 | フォロワーの管理はだれがするか 費用はかかるか |
| 11 | フォロワーさんにお給料的なのは発生するのか？ |
| 12 | フォロワーの視点は大事 |
| 13 | 学びの場について障がい等の理由により選択できない場合、保護者が選択することになるが父母で意見が異なる場合があり判断が難しい。 |
| 14 | まずは支援者に対して研修会を実施してはどうか。 |
| 15 | ヘルパーさんと役割は違いますよね。 |
| 16 | 特に在宅で生活している障がい者や高齢者にフォロワーが必要だと思いました。 |
| 17 | フォロワーシステムは聞きなれない言葉で支援者との違いなど正しく理解することが必要。 |
| 18 | 仕組みとしてはいいと思うがなり手はあるのか？ボランティア？事故やトラブルはだれが責任を取る？継続性は担保できる？等の課題は多そうに思う。 |
| 19 | フォロワーシステムのマインドを地域で共有できれば、よりよい社会につながるのではないかと感じました。 |
| 20 | 言いたいことを言うことは大事なことと思います。しかし、その行為を行うことが難しいことであることも理解しています。 |
| 21 | 自分を理解してくれて話を聞いてくれる人は心強いです。フォロワーシステムのことをもう少し知りたい。 |
| 22 | 本人の意見を尊重できるシステムを構築できれば、フォロワーシステムも必要ではないと思います。 |
| 23 | 在宅医療では、ACPなどの場面以外でも、意思決定時に「よかれと思って」と口出ししてしまう。施設などでは有効なシステムかと思うが、地域の方には有効なのか？ |
| 24 | サポート側もゆっくりあせらず意思を聞く。時間の制約など様々な制約があってもなかなかできない |
| 25 | 知、年齢と発達年齢が一致せず難しさがある。親でも難しい、伝わりづらい部分 |
| 26 | フォロワーシップ知らなかった |
| 27 | Q, 自分の思い、言えなかったことある？A, ある。聞こえない自分見せなくなかった、言えなかった、受容、10年できなかった |

⑦千里山佐井寺まとめ

| NO | 付箋の内容 |
|----|---|
| 1 | 必要だけど準備できない人たちがいる。それをどのようにしたら良いか。 |
| 2 | 段ボールトイレのことは初めて知った。そのような体験の機会があれば市全体で開かれれば良いと思う。 |
| 3 | 防災バンダナは非常に良いアイデアであり、これをいろいろな応用ができればさらに有効活用ができると思う。例えば、ケガをしたときに三角巾として使う、火災時マスクとして使うなど、色々と思いを考え、発信していけば良いと思う。 |
| 4 | 災害発生時のアナウンス方法について、メールやLINEだけでなく、町内放送的なものや耳が聞こえにくい人のためにパトランプが点灯する仕組みができたなら良いと思う。 |
| 5 | 吹田市を防災モデル都市にさせるために、各町内にランプを設置させる。耳の不自由な人も目の不自由な人もわかるようなシステムをつくる。どこの福祉避難所へ行くのか日々共有。 |
| 6 | グッズの工夫（いつも持ち歩けるバンダナ、雨にぬれても破れないプリント）。一人ぼっちにしない。継続して取り組む。自分事。 |
| 7 | 障がい別にいろいろなツールがあるとわかった。全国のツールを調べて採用できるものは取り入れていければと思う。 |
| 8 | 地域の避難所に障がい児・者が生活できるよう、本人の準備や受入の整備、支援する地域住民が大事。 |
| 9 | 障がい種別ごとの対応があるのかと思った。当事者会や地域の自主防災組織と連携したらどうか。 |
| 10 | コミュニケーションボードは多くの避難所に設置されるといいと思う。 |
| 11 | どの地域でもこの取組が必要 |
| 12 | 黄色の防災バンダナの取組は大変参考になりました。吹田市でもやりましょう。 |
| 13 | 防災バンダナは産駒になりました。 |
| 14 | 医療ケア児で人工呼吸器など常時電源が必要とする子供がいる。そのためポータブル電源を購入して対応できるよう準備を進めている。 |
| 15 | 災害時に障がいのある方が必要な情報や支援につながらずに在宅避難せざるを得ない方も多。市や当事者会との連携もしながら対応を考えていくことが必要だなと感じた。 |
| 16 | 災害等、不測の事態に対応することが難しい障がい者は多いと思います。そのような方が有事の際に困らないようにする取組は素晴らしいと思いました。 |
| 17 | 防災に関する仕組みは市全体でしたほうが良いと思います。 |
| 18 | 普段からの交流、防災知識、障がいへの理解等に関して、市全体的なとりくみが必要だと思います。 |
| 19 | バンダナはすごく良いものだと思います。避難所に何部かおいておく必要があると思いました。 |
| 20 | 初めて知ることがたくさんありました。 |
| 21 | 災害時における段ボールトイレはすごく役に立つと思いました。しかし段ボールが非難所にあるかどうかは別問題だと思います。 |
| 22 | 「支援が必要な人」「支援ができる人」わかりやすくする工夫があるといいと思います。（これもバンダナとか？）あとは関係機関でどこが一番に連絡をとるかなどの取り決めは平時からしてあげる必要がある |
| 23 | 黄色のバンダナいいなー、トイレも関心 |
| 24 | 聞こえない人にとっては身振りめっちゃ大切！ |
| 25 | 実際、災害がおきた時どう使うの！？誰が知っているの！？ |
| 26 | 普段から使う、知っておく、決めておく、大切 |
| 27 | 行政発信！支援が必要な人が使うものとして黄色は一般的？一般の人に知ってもらわないと。 |
| 28 | もう少し行政として大きい取組をすべきでは？ |
| 29 | 訓練ではなくもっと日常から |

⑧亥子谷まとめ

| NO | 付箋の内容 |
|----|--|
| 1 | 多くの人が集まれてすてき。メンバーの対等性を保つコツがあれば知りたい。 |
| 2 | ネットワークを作っていく中で、工夫していること（仕掛けなど）があれば知りたい。 |
| 3 | 構成員が多いのが単純にすごいと思った。いろんな関係機関が集まって対等に話せる場なのかなと思った。 |
| 4 | ネットワーク作りは、当事者にとっても支援者にとっても非常に大事なことであり、困ったときにどこに相談すれば良いのかがわかるので良いと思います。 |
| 5 | ネットワークは大切ですね。日々、多様な機関が共有することが課題解決につながります。 |
| 6 | ネットワーク会議では、参加者が対等平等が必要ですね。 |
| 7 | ネットワークの原点は、対面でのリアルな関係性。常時or非常時で密度を変えるのもあり。 |
| 8 | 定期的、継続的に必要。お互いの助け合いの必要性。 |
| 9 | 形式的なネットワークになりがち→少人数でのグループワークで顔を合わせて話す。Winwinの関係。 |
| 10 | ネットワーク作りは手間暇がかかるが、継続性が大切。ブロックや小学校区などの設定も大切だと思う。 |
| 11 | ネットワークは無限の可能性がある。全体会議でのこのつながりも大切にしていきたい。 |
| 12 | コミュニケーションボードは多くの避難所に設置されるといいと思う。 |
| 13 | 支え合いのヒントを他の地域でも共有できたら |
| 14 | 最終的には地域づくり、つながりづくりが必要だと思います |
| 15 | 居住支援相談の話を伺いました。住民にも聞かれたら答えたいです。 |
| 16 | 地域の事業所、民生委員、行政機関を広く巻き込んで規模が大きな地域会議であったと思います。 |
| 17 | 様々なネットワークが重層的になって支援される側も支援する側も安心できればと思います。 |
| 18 | 親が自身のこと子供のことを気軽に相談できる環境があること、また、行政につながる場があることが大切だと思います。 |
| 19 | 地域のネットワークを作る中で顔の見える関係作りができると、より具体的な関りや支援にもつながりやすくなるので、ぜひ発展させてほしいです。 |
| 20 | 事業所や民生委員など幅広くネットワークができているのがすごいです。今後もより多分野の期間に参加してもらいながら変容していくことにつながれば。 |
| 21 | 地域の方も一緒に取り組みを深められていることがとてもすごかったです。ネットワークの輪の広がりを感じました。 |
| 22 | 事業所の参加が多いことで横のつながりが増え、地域だけではなく、つながることができていて良いなと思います。 |
| 23 | 地域のつながりを大切にしたいと思いました。 |
| 24 | ネットワークにたくさんの方が参加できたらと思います。オンラインでも参加することができたら、いいなと思います。 |
| 25 | 亥の子だ谷エリアは市役所からも遠く、相談できていない人がたくさんいると思うので、地域でつながることが大切だと思います。 |
| 26 | 当事者が地域会議に参加できていること、嬉しく思う |
| 27 | 関係する事業所だけでなく地域で集まる、つながる大事、障がい者の話をきく機械がある |
| 28 | 自治会にはいろんな会がある、小さな円をどう大きくしていけるか広げていけるか、システム欲しい。→難しい |
| 29 | 地域の範囲の適性な大きさをなんだろう… |

⑨千里NTまとめ

| NO | 付箋の内容 |
|----|--|
| 1 | 孤立化は難しい問題 |
| 2 | 障がい者相談支援センターのことが周知できるように市報に載せるなどの工夫が必要。 |
| 3 | 支援を求めている人がどこに聞いて支援を求めれば良いのかわかりにくいと思うので、地域の掲示板や見せやすい場所に相談窓口の情報を載せたほうが良いと思います。 |
| 4 | なにから進めていけば良いか考えるのも難しい問題と感じた。支援を必要としていない人は、自分や周囲が困っていることにも気づいていないのではないかな。そのため困りごとが表面化したときに適切な機関につなぐことのできる仕組みが必要だと思った。 |
| 5 | 各機関がつながり、あの人に相談しようというイメージが湧くと良いなと思った。 |
| 6 | 誰とも繋がりが無い成人の人は割と多いと思います。その方が人に頼る必要が出た時にどうすれば良いのかの情報がわかりづらいかもしれません。 |
| 7 | 何か地域の苦情や事件でようやくその存在がわかることも多く……。個人情報を市が把握することも必要かと。 |
| 8 | 情報の届け方は恒常的な課題であり、解消は本人への意識改革と提示方法の工夫。 |
| 9 | 支援する側と受ける側の温度差。 |
| 10 | 取り組み方法が見つからないのが課題。周知方法の工夫が必要。 |
| 11 | 支援を届けるために、どのような工夫をすれば情報が届くのが課題。 |
| 12 | いろいろな地域でいろいろな取り組みが行われていると思う。取り組み事例を知りたい。 |
| 13 | 障がい者相談支援センターの認知度をもう少し上げるには、高齢者の地域包括支援センターがそうだったように時間が必要。 |
| 14 | 地域住民の方にとっても一緒に考えていきたいことをテーマに |
| 15 | まずは地域に知ってもらう活動？ |
| 16 | 地域の方にメンバーとして入ってもらっては |
| 17 | 困っている人に相談の窓口を知ってもらうための工夫をしましょう。 |
| 18 | 私たちの役割は住民とのとっかかりの窓口になればいいと思います。 |
| 19 | 困り感がなくつながりを持っていない方は多いと思います。後々に取り返しがつかなくなる前に介入ができるようにすることが重要であり、大きな課題であると思いました。 |
| 20 | 相談場所に困っている人が自ら来るのは難しい。それよりも居場所を増やしたほうが、その利用者の中から相談につながる人もでてくるのではないのでしょうか。 |
| 21 | 相談や支援が必要な方がつながらない現状は報告の通りあります。身近な相談機能に加えて当事者や家族の求めるものが何かを検討し、その機能も付加していく必要があると感じた。 |
| 22 | 今回はすごく為になりました。 |
| 23 | 「分かりやすいパンフレットなど説明しやすいツールがあれば」というグループの方からのご意見がありました。わかりやすく、地域の方に伝わりやすい方法が必要だと感じました。 |
| 24 | NTエリアあ広大で市役所からも離れているため、出張先での相談対応の需要は高まると思います。 |
| 25 | 障がい支援センターに関わることや障がい者手帳を取得することを嫌がられている方に対して、メリットをわかりやすく伝えることができるパンフレットなどがあれば、良いと思います。 |
| 26 | 支援が繋がっていない人に対して継続して支援することができる制度もいるかと思っています。 |
| 27 | 地域のイベント等に案内したり、民生委員等の協力があれば、良いと思います。 |
| 28 | 各地域の課題をふまえて全体会として優制優位をつける必要があるのでは？ |
| 29 | サービスを受けるもの自分と行政のつながりはあっても横のつながりって難しい |
| 30 | 自立支援協議会ですぐできる。重要だけど時間かかるなど整理しないと話すだけになっちゃう |
| 31 | 成功体験あればつながりやすいのにね。障がいのある人と関わるきっかけ、知るきっかけがあればな |
| 32 | 無関心ではなく地域の顔のみえる関係にならないかな |

運営に対する意見

| NO | 付箋の内容 |
|----|--|
| 1 | 自立支援協議会を年2回はもったいない。3~4回は必要じゃないか。 |
| 2 | 会議の日程は、最低2か月前には周知してほしい。 |
| 3 | 困難ケースの共有もしたい。 |
| 4 | 交流を目的とした会議運営、意図が明確でした、ありがとうございました。 |
| 5 | 初めて本当の意味で全体会議に参加できたと思えた。 |
| 6 | 他の部局の方も参加し、多くの方にこのような会議に関わっていただけると良いと思います。 |
| 7 | グループワークを通じて、ネットワーク（顔の見える関係）が構築できたと思うので、良かった。 |
| 8 | 有意義な時間を過ごすことができた。 |
| 9 | 子育て中の方は情報を取りに行く余力がなかなかないのかもしれない。学校で協力できることがあれば…と思う。 |
| 10 | 相談支援の支援困難ケースとはどこで判断するのでしょうか？本人だけでなく、家族も含めるとかなり困難ケースになるパターンもあるかなと |
| 11 | グループワークすごくよかったです。ふせんにかく時間がなかったので、次はふせんにかくのはプラスで言いたい事をかくだけにして、グループワーク内の意見を書記がまとめて、とかにしてもイイと思いました。 |
| 12 | グループワークの時間が細切れで少し疲れた。 |
| 13 | 本日、報告いただいた内容は広く事業所や市民にも伝えていただければと思います。 |
| 14 | 全体会議でグループワークできて良かったです。 |
| 15 | グループワーク楽しかったです。様々な分野の方の考え、思いを知ることができ、母の |